

ゆめみにゅーす



YUMEMI ZOO



季刊 VOL. 59
発行日 令和3年2月3日
発行責任者 夢見ヶ崎動物公園
問い合わせ 044-588-4030
飼育展示数 哺乳類:24種164点
鳥類:25種87点
爬虫類:10種87点
(令和3年1月末日現在)

元気で

世界は一向に落ち着きませんが、動物たちは元気にしています。

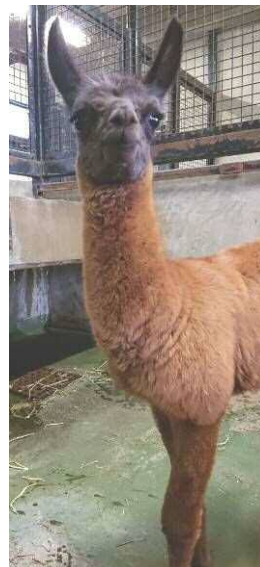


こんにちは赤ちゃん

フサオマキザルの赤ちゃんたちは元気に育っています。

5月10日生まれの赤ちゃんはすっかり一人歩きするようになりましたが、まだ何か不安なことがあると母親を呼びます。

12月10日生まれの赤ちゃんは声が大きく、よく鳴いています。



11月9日生まれのラマの赤ちゃんはどんどん首が太く、足も伸びすっかり大きくなりました。

*公式フェイスブックはじめました。詳しくはこちらから。



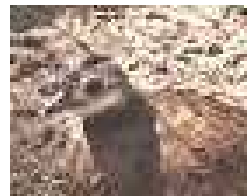
★ピックアップ動物★

パラワンコクジャク

鳥綱 キジ目 キジ科

フィリピンのパラワン島だけに生息する固有種です。絶滅危惧種で、生息地の減少などにより個体数は今も減少中とみられています。森林に生息し、果実や種子、虫などを食べる雑食性で、オスとメスでは羽色が違い、オスは頭頂部の羽毛が長く伸び、赤いアイリング、黒い体幹に角度によって青にも、緑にも、紫にも見えるメタリックな斑紋が目立ちます。腰から伸びている長い羽根は尾羽ではなく、上尾筒と呼ばれる羽で、オスにもメスにも目玉模様があります。クジャクの仲間は興奮するとこの上尾筒を立てて威嚇したり求愛したりしますが、コクジャクの仲間は体の側面に沿って立てながら相手の周囲を歩き回るのが特徴で、その際オスがメスに嘴でくわえた食べ物をプレゼントすることもしばしばみられます。

ただ、拾ったものを見境なくプレゼントしているようで、くわえているものがゴミや糞であることもしばしばです。飛行は得意ではありませんが、脚力が強く、ジャンプで一気に木の上などに跳び上がります。飼育現場では、どうも人の顔を見分けているようなそぶりを見せます。パラワンコクジャクに嫌われてなぜか毎回自慢の脚でキックを食らってしまう人、まったく意に介されない人がいますが、なにが彼らに好かれ、あるいは嫌われるポイントなのかは分かりません。

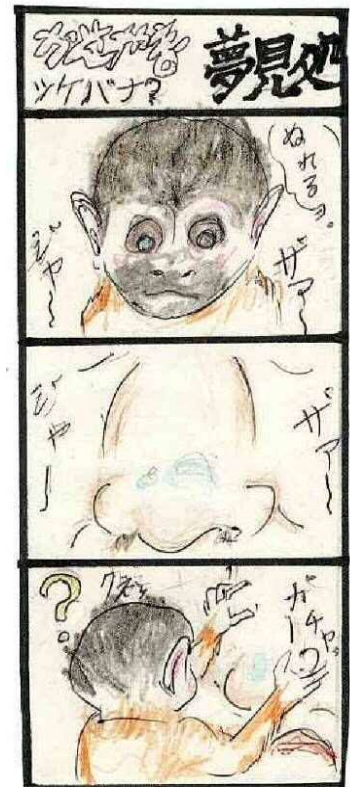


獣医の日記

これまで大した病気をしたことのなかったブラウンキツネザルのこしあんの食欲がちょっと落ち始めたのが昨年(2022年)の年末でした。そのうち食欲が全くなり、お腹を下しはじめ、検査の結果、細菌性の腸炎ということがわかりました。

すぐに治療を開始し、一時は良くなったものの、またぶり返してしまいます。食べなければ体力が落ちてしまいますが、消化管の回復のためにはある程度の絶食も必要です。絶妙なバランスを取りながら、毎日の体調の変化を見て餌も離乳食のようなドロドロしたものから刻んだものまで、試行錯誤して治療にあたっています。普段は人間用の食べ物はダメ!絶対!なのですが、お腹の調子を整えるために乳酸菌飲料をちょっと飲ませたり、体力が落ちないように人間の赤ちゃん用の離乳食をたべさせてみたり…。ダメな理由の一つでもあります。人間用の食べ物は味が濃くにおいも強いので美味しく感じるようです。

そして、こしあんの元気のバロメーターとして役立ったのが甘え方。人工哺育で育ったこしあんは、人間を頼ってきます。実は最初にちょっと調子が悪いのでは?と気付いたのも、いつもより甘えてくることに気付いたのがきっかけでした。その日からそれが顕著になり、お腹の調子が悪い日は抱き着いて甘えてきますが、調子が良い日はつれない態度になりました。こしあんにそっけない態度を取られ、「今日は調子がいいのね」と安心する日が多くなってきましたが、まだ食欲は安定せず、うちも時々ゆるくなるので油断できません。しっかり治そうね。



★動物たちの主な移動(令和2年11月1日~令和3年1月31日)★

マーコール(♂1死亡、♀1死亡)、ホンシュウジカ(♂2死亡)、ラマ(♀1繁殖)、ワタボウシパンシェ(♀1死亡)、ハイロコクジャク(♀1搬出:智光山公園)、パラワンコクジャク(♀1搬入:上野動物園)、フサオマキザル(性別不明1繁殖)